

第64回京丹後市上下水道事業審議会会議録

1. 開催日時：令和6年2月1日（木） 午後2時20分～午後4時20分
2. 開催場所：京丹後市役所 峰山庁舎205会議室
3. 出席者：西村正明会長、今田弘一副会長、袖長恵子委員、平野佳代子委員、
草本栄子委員、蒲田幸造委員、山下初乃委員
欠席者：今井秀一委員、柿本寿々子委員
事務局：橋本上下水道部長
経営企画整備課：小坂課長、川戸課長補佐、吉野課長補佐、
田宮総務経理係長
施設管理課：岸本課長、西口課長補佐、由良水道施設係長
建設部土木課：安田部長、稲岡課長、和田課長補佐

4. 議題

- (1) 市長挨拶
- (2) 上下水道事業審議会への諮問
- (3) 議事等
 - ①京丹後市水道事業ビジョンの策定について
 - ②雨水事業の公共下水道事業への移管について

5. 公開又は非公開の別 公開

6. 傍聴人の数 0人

7. 内容（要旨）

■開会

事務局から第64回京丹後市上下水道事業審議会の開会を告げる。

■市長挨拶

中山市長

■上下水道事業審議会への諮問

中山市長から会長に諮問

■市長退席

中山市長退席（他の公務のため）

■会長挨拶

西村会長

■上下水道部長挨拶

橋本部長

■事務局紹介

橋本部長による上下水道部出席職員の紹介

■議事（会長が進行）

<会長>

最初に、委員の出欠状況について事務局より報告をお願いします。

<事務局>

条例では、委員定数の半数以上の出席で会議が成立することになっています。

本日の出席者については、審議会委員 9 人中 7 人の出席ですので、本日の会議が成立していることを報告します。

■会議著名人の指名

<会長>

続いて、本日の会議録の署名人を指名します。袖長委員をお願いします。

■事務局の説明・質問等

<会長>

それでは議事に入ります。初めに、京丹後市水道事業ビジョンの策定について、事務局から説明をお願いします。

<事務局>

事務局説明【資料説明①】

<会長>

ただいま、事務局から京丹後市水道事業ビジョンの策定について説明を受けた訳ですが、これについて、ご質問、ご意見ありましたらお願いします。

<委員>

今までの水道事業基本計画を基に、国や府が新たなビジョンを掲示したことを踏まえて、今後 10 年間のビジョンを策定したものの課題などは説明されたが、具体性がないように思えました。

例えば、新エネを導入した水運用の推進等、広域的な連帯は大切なことだと思うが、具体的にどのような計画がされているのか、既にたたき台があるということなのか。

<事務局>

具体的な計画・プランについては、新エネの部分で言うと、将来に向けて今から具体的な計画又は実際の具現化ということで進めていくのがこのビジョンの趣旨になります。今までの計画は、期限を決めてプランを考えていたが、今回は、50年、100年先まで続いていく水道というものを考えたときに、どういったものがその課題として克服していくのか等をまずはこのビジョンに挙げていこうということです。

ご意見のように、すぐにプランとして計画が組めるものあれば、新エネの部分あたりは、一日も早く調査が終わって、計画を立て、実施できればいいですが、まずはプランを組むよりは、新エネに向けての導入というところから始めて、将来的にはその課題を整理し、個々に克服し実現していこうということがこのビジョンです。

<会長>

とりあえずは、大まかな方向性を決めるということでしょうか。

具体的な大まかなビジョンに沿って実施していこうというのが今後の予定になってくるわけでしょうか。

<事務局>

そのとおりです。

<委員>

能登半島地震から考えると、優先順位があると思います。強靱化・耐震化ということも時間を持ってやるべきことではないと思うし、広域的な連携も必要なものだと思います。できることから行うべきだと思うが、DXの推進、ICT技術等、調査研究をしている場合ではないと考えます。資料の活用スケジュールを見ていると、3、4年かかるものもあるが、優先順位を検討して、速やかに具体的なスケジュールの提示も必要だろうと思います。

あと、予算の件について、具体的な方策を考えた場合、相当な経費が必要となってくるが、そういったことは一切この中には出てこないの、それはまた別の話なのかは分からないが、もう少しそのあたりも載せていいのかな、と思いました。

<事務局>

ご指摘のとおり、アセットマネジメントは、既に実践と入れております。できることは速やかに行い、計画化していくということ、また施設、管路の耐震化も同じ考えです。

ICT技術の活用は、実際、今、テスト的に導入しています。

財政の件も大事なことです。具体的方策の一番上に挙げているアセットマネジメントの実践は、ストックマネジメント、経営戦略、資産管理をなさйтеということです。

まずは財政シミュレーションを実践として行い、具体的な方策を考えたときの経費などを加味して、さらに実践を考えるということから、ビジョンに書いたということです。

<委員>

財政的なことが気になりました。令和13年若しくは17年には内部留保資金が枯渇する

ようなことが書かれていますが、ビジョンなのでどこまでを載せるのか、ではあるが、やはり持続的という意味では外せない問題かと思います。

<会長>

事務局の方、よろしいでしょうか。他にはありませんか。

<委員>

京丹後市の人口ビジョンと社人研の将来人口推計とが常に比較されています。

京丹後市は長い先まで予測あって、社人研はそれより10年ぐらい先のサイクルで見えています。これを比較する意味がわからないので教えてください。

<事務局>

社人研の最新版の将来人口推計は、令和32年まで出ているので載せています。

京丹後市の人口ビジョンは、目標年度である令和42年まで計算されていますので、最終年度までの予測ということで載せました。

<会長>

なぜ、京丹後市の人口と社人研の人口が二つ比べてあるのか、とのご質問のようでしたが。

<事務局>

今後、施設の更新や水需要の予測、財政状況をシミュレーションしていく中で、実人口を把握しながら進めていくのですが、将来を見据えた予測を二通りシミュレーションしたものです。

<事務局>

社会人口調査研究所の出したものの見方の物差しを、一つの見方とする。もう一つは、本市が目的とすることを加味した上での人口ビジョンを出すので、そういったビジョンでの見方ができるように二つを挙げています。

社人研の将来値だけを見るのは誤差があったりすると、やはりリスクとなります。合理的に効率的な財源の中で将来の見通しを持った計画として立てるという場合には、二つある見方を基に、実績も加味した見方ができればより精度が高くなるのではないかと思います、このような形にしています。

<会長>

将来的な予測を立てる場合には、何らかの数字が必要になってくるわけですね。何らかの基になる数字が、その社人研が出した数字と、京丹後市独自が予想している数字と二つある、それを比較したということですね。

<会長>

まだご意見があるかと思いますが、もう一つ課題がありますので、本件につきましてのご質問意見についてはこれで打ち切らせていただきます。次回の委員会の時に、また意見を言っていただくということで、次の雨水事業の公共水道事業への移管についての説明をお願いします。

■建設部長挨拶

安田部長

■事務局紹介

安田部長による建設部出席職員の紹介

<事務局>

事務局説明【資料説明②】

<会長>

ご意見並びに質問ありましたら、挙手をしてお願いします。

<委員>

3条支出、4条支出など色々と科目があって、金額もありますが、これらをもう一度説明してもらえますか。

<事務局>

来年度から下水道事業の一つとして、この雨水事業が加わります。具体的な取得金額や3条、4条のいくらお金がかかるのかを書いています。要は、これが来年度から公共下水道事業としてお金が支出されることになりますので、事前に審議会で説明をするということが今日の趣旨です。

3条は、一般的には収益的収支といい、通常の営業活動に伴う費用をいいます。

4条というのは、営業外部分になりますので資本的収支ということで、投資に係る費用というイメージになります。

<会長>

先ほどまでは、水道の話でしたが、今、説明を受けているのは下水道の方です。間違えないようにしていただきたいと思います。今までの審議委員会の中ではこの雨水の関係は初めての案件です。

現場の維持管理は従来どおり、雨水管理については建設部がして、お金の管理だけは上下水道部が管理するということで、何ら影響はないということです。ご理解いただき、ご質問並びにご意見があればお願いしたいと思います。

<委員>

なぜこれが二つの下水路が下水道に移って他の下水路は移らないのか。選ばれた理由を教えてください。

<事務局>

内ヶ森都市下水路と小栓川都市下水路の二つは下水路の事業計画を策定していることから企業会計の方に移行させていただくということです。

<会長>

ありがとうございました。意見ありますか。

<委員>

下水道事業の施設を使うから、下水道の方の経理の方で扱うという理解でいいのか、ということと、ここ以外にも下水道の方に経理が変わることはありますか。利用水路はあるのですか。

<事務局>

峰山町と網野町は、都市計画区域設定があります。

都市下水道として指定されているものやその他の水路がたくさんありますが、区別しています。

まず、一般水路と都市計画水路の違いについてです。

一般水路とは、普通河川というような言い方をします。

都市下水道は、都市計画区域内にあることが大前提で、主に市街地における雨水を排除するもので、排除する先が海水や河川に流れるのが都市下水路です。この都市下水路に位置付けられるためには手続があり、それが決定されると都市下水道となります。

それ以外の決定されていないものは、一般水路という位置付けです。公共下水道というのは、汚水を排水するもので、終末処理を設置して整備するものをいいますが、今回都市下水路についても公共下水事業として位置付け整備をしてきた訳ですが、それが一定の目途がたったので、今回、下水道事業会計移行にさせていただくということになります。

<会長>

ありがとうございました。

予定時間をかなり経過してしまいました。この辺りで終わらせていただきます。

熱心なご討議ありがとうございました。

これで終了とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

事務局の方から、次回の日程をお願いします。

<事務局>

次で水道事業ビジョンの本格的な議論の方をお世話になりたいと思います。

次回は、2月7日水曜日、午後2時からでどうでしょうか。

<会長>

一週間後の次の委員会で一応まとめて、3月に議会に間に合うように提案をしていただくということで、予定どおりいきたいと思います。

次回の委員会は、2月7日水曜日午後2時からお願いします。

■閉会挨拶

今田副会長

<事務局>

長時間ありがとうございました。

お気をつけてお帰りください。

午後4時20分終了